

令和7年度第1回石川県能登地域公共交通協議会 議事概要

日 時：令和7年8月27日（水）13：30～

場 所：のとふれあい文化センター 2階 学習室

出席者：別紙のとおり

1 開会

（矢後企画振興部長）

本日は大変お忙しい中、ご出席いただき感謝申し上げます。能登半島地震から1年半が経過した。交通事業者や道路管理者など、関係各位のご尽力により、順次公共交通が再開された。

昨年度は本協議会において、のと鉄道や特急バスなど、広域基幹交通の計画について第一次計画をとりまとめた。この計画を基に、のと鉄道の鉄道事業再構築実施計画が認定され、車両更新に手厚い支援を受けられるようになった。また、後ほどご紹介させていただくが、新たな車両デザインの一般公募を行っているところである。

また、奥能登4市町が共通のAI オンデマンド交通を導入するプロジェクトが、国交省のモデル事業の採択をいただいた。

本協議会では、路線バスやコミュニティバス、新たなAI オンデマンド交通の再編について検討し、第二次計画として市町を結ぶ地域間幹線交通や市町内交通についてとりまとめる予定でいる。本日は、今年度実施したアンケートの結果と、それを踏まえた検討の方向性についてお示しする。持続可能な地域公共交通の確保に向けて忌憚のない意見をいただきたい。本日はどうぞよろしくようお願い申し上げます。

2 会長挨拶

（高山会長）

本日は、昨年度とりまとめた第一次計画に続き、第二次計画をとりまとめることになる。第一次計画は、関係する交通事業者も多くはなく、目指す方向性も定まっていたので、策定は難しくなかったと思うが、第二次計画では、地域公共交通をどのように維持管理していくかという課題がある。人口が1割以上減少している報道もある中、特に若年層の減り方が多いことを考えると、地域公共交通が使えないと生活の足を確保できない。今回の第二次計画は非常に重要になる。外部から復興で来ている方、観光の足になることも勘案しながら計画を策定していきたい。

3 議事等

- （1）石川県能登地域公共交通計画（第二次計画）の策定に向けて・・・資料1
- （2）「交通空白」解消パイロット・プロジェクトについて・・・資料2
- （3）のと鉄道の鉄道事業再構築等実施計画について・・・資料3

4 意見交換

(高山会長)

次に議事(1)～(3)について、順番にご意見をお願いしたい。

(七尾市：坂下企画政策課長)

我々としても資料2にあるようなパイロット・プロジェクトには注目しており、七尾市でもノウハウを参考にさせて頂きたく、どのような実証結果が得られたかをまた共有いただきたい。

(輪島市：中山副市長)

人口が減少しており、交通弱者も多い中で、持続可能なシステムの構築は難しいと思う。細かいところまで検討してほしい。各自治体間の移動をしっかりと把握して検討してほしい。

(高山会長)

自治体間を結ぶ需要は高校生の通学と高齢者の通院、そして観光客の需要が考えられる。今でも路線バスはあるが、昔に比べて路線がかなり減っており、また復活させるのか、新たな移動手段に切り替えるかはこれからの検討かと認識している。

(珠洲市：金田副市長)

公共交通施策は長年取り組んでいるが、まさに総合政策と感じている。公共交通を前提とした教育・医療・福祉・観光など様々な分野に関わりがある。ましてや、高齢化と過疎化、そして大災害を踏まえて、公共交通の役割はますます大きくなっていると感じている。広域の議論が始まったことはありがたく感じているが、3点ほど意見とお願いをしたい。

1つ目は、色々な政策に関連しているが、昨年度は発災当年であり中々動きづらかったものの、令和7年度から少しずつ色々な政策が動き出している。その中で、奥能登2市2町の病院が将来統合する可能性がある。先般の病院統合の会議では3本柱が示された。1つ目が医療人材の確保、2つ目が施設整備、そして3つ目に公共交通の確保が挙げられている。今回の枠組みは南の方まで含まれているが、奥能登と中能登のエリア分けが必要だと感じる。統合病院の開設は7年後と言われており、これを見据えた広域交通の整備は避けられない課題であり、これを念頭に議論いただきたい。

2つ目は、運転士不足への対応である。病院への足の確保も必要な一方で、運転士がいないと何も出来ない。そうはいってもバス運転士の確保は民間事業者の仕事という認識がある反省もあるが、行政そのものがドライバー不足を確保するのか、確保できない場合は自動運転の導入や特区申請をするなど、具体的な方針を掲げて取り組んでいく必要がある。ぜひ計画に盛り込んでいただきたい。

3つ目は、AI デマンド交通について。交通弱者イコールスマホ弱者でもある。AI や DX に 80 歳以上の方は中々付いて来れない。あと 20 年もすれば時代も変わるかもしれないが、そういう方もいる前提で新しい仕組みを考えていただきたい。珠洲市だけでなく、奥能登の高齢化率は五十数%、高齢者のうち、後期高齢者率は七十数%である。使ってもらえないシステムはないものと同じであるため、現実的な施策を考えていきたい。

(高山会長)

極端な話、スマホを使えない高齢者に対して、行政がそのような高機能スマホを貸し出すということも考えられる。そのような施策もご検討いただきたい。

(羽咋市：山岸企画財政課長)

資料1の10ページに、公共交通のサービス改善次第では利用する可能性があるというが、前回の会議でもKPIで示された内容かと思う。羽咋市の取組について、令和元年頃から駅周辺整備と地域内交通再編に取り組んできたところ、昨年7月1日にラクナはくいとAIデマンドを含めた新たな公共交通をスタートさせた。1年が経過し、当初ラクナはくいの利用者数の目標を6万5千人としていたが、結果としては34万7千人であった。これに伴い、羽咋駅の乗降客数が10%増、公共交通利用が25%増となった。駅周辺整備に限らず、市所有の駐車場を無料にして、パークアンドライドを推奨するなど、様々な施策を推進してきた。これで1年間の結果を見ると全ての数字が伸びている。このように、しっかりとした政策を打てば公共交通の利用は確実に伸びると思う。

2点目、資料1の8ページの、市町の域を超えた交通網形成について、羽咋市の地域循環バスは、宝達志水町と相互乗り入れしている。また中能登町からも乗り継ぎダイヤの調整ができないかとの話を頂いたところであるが、ダイナミックにはすぐにできないかもしれないが、交通結節を強化しながら、前向きに調整を進めていきたいと考えている。また、羽咋市山間部の神子原地区は富山県氷見市とのつながりが強く、氷見市民病院への通院など、生活圏の一部となっており、氷見市役所とともに地域循環バスの乗り継ぎを検討している。生活圏を大切にしたい施策に取り組んでいきたいと考えている。

(高山会長)

羽咋市は相当頑張っていると感じている。PPP/PFI事業を積極的に取り入れた攻めの政策が功を奏していると思う。もっとできることはある。震災の影響もあり、難しい面もあるかと思うが、市内の更地の部分も考慮した積極的なまちづくりを考えてもよいかと思う。

(志賀町：飯田参事)

奥能登の広域オンデマンドには興味を持っており、当町では生活圏が中能登地域となっているが、広域運営の参考にしていきたい。町内のオンデマンド化を進めたが、旧町単位での地域移動の距離が長く、時間帯によって予約が困難な場合がある。先日も空港ふるさとタクシーについて県の方と打ち合わせをしたが、定時定路線との棲み分けをしながら住民のためになる交通となればと考えている。

(高山会長)

志賀町はAIを導入して、富来と高浜の往来が増えたと聞いている。経費についてはこれから議論してもらえればと思う。

(宝達志水町：南谷企画情報課長)

震災の被害も小さく他市町とは状況は違うかもしれないが、一方で町の課題は同様であり、ブロック単位での議論は必要と感じている。コミュニティバス、デマンドタクシーなどの移動手段があるが、小学校の再編でスクールバスが増えた。それに伴い、ドライバーの確保が課題となっており、町内事業者には頑張ってもらっているものの、行政の支援の方法については模索中である。どのように地域の移動や若者、子育て世代を支えるかは大事な視点だと思っている。

(高山会長)

宝達志水町も羽咋市と生活圏が被っているところがあるため、地域公共交通会議に、互いに委員をオブザーバー参加した方が情報共有できるのではと提案し、実施してもらっている。直接、協議会に出させていただいて肌感覚を高めてもらってもよいし、今回の広域の協議会の場もうまく活用してほしい。

(中能登町：三野課長補佐)

市町の域に囚われない生活圏ということで、中能登町には大きな病院がないので、交通弱者が羽咋病院に行けるように、るんるんバスの乗り継ぎの実施や、コミュニティバス沿線にも病院がないので、隣接する羽咋市内の個人の病院へバスで行けるように検討をしているところである。AI オンデマンドバスは、中能登町で導入の必要性があるかは分からないが、車両の小型化等も含めて検討したい。

(穴水町：宮崎副町長)

パイロット・プロジェクトモデル事業の採択に感謝している。病院統合の話がある中で、通院に関しては、AI オンデマンド交通の仕上がりがあるまま高齢者の存否に直結すると思っている。子供や高齢者の、地域での人口分布のプロットなどのデータも活用して、AI オンデマンド交通の構築をしていければと考えている。

(能登町：本井課長補佐)

災害公営住宅の建設など恒久的な住まいの再建に合わせた地域公共交通の再構築について、住宅がどこに建つのが未確定の中ではあるが、住まいが確定した段階で地域公共交通の再構築という流れになるかと思う。計画に対して当町の復興が遅れていると感じており、その点も踏まえて、第二次計画の取りまとめに協力したい。また、住民アンケートを取ったとのことで、住民の利用を最優先に考えた計画にするのだと思うが、路線バスが人口減でどうしても減っていく中で、高校生の部活帰りのバスがないとの声があり、公共交通以外での解決法がないか考えているところである。その点も含めて、住民が利用しやすい環境になればと考えている。

(高山会長)

第一次計画で決めた幹線以外の地域間、地域内交通はフレキシブルに考えられるので、住宅の再建に合わせて、また高校生の需要に合わせて、毎年路線の見直しができるので、引き続き考えていければと思う。

(石川県老人クラブ連合会：山崎委員)

老人クラブは県下に8万人の会員がいる。老人の定義は60歳以上の高齢者であり、総数の2割にあたる1.6万人が能登地域の住民である。金沢や七尾、珠洲などで会議をすると、家族の送迎が必要なこと、通院が大変なこと、などの意見を聞く。また、AI弱者イコールスマホ弱者であるということも痛切に感じており、老人クラブでもスマホ教室を開催して、適応を図っている。

(石川県高等学校PTA連合会：新谷委員)

住まいは能登町で子どもが飯田高校に通学している。震災後、学校に行けない日々もあり、子共もモヤモヤしていたが、学校に通えることが子ども達の生きがいになっている。バスで学校に通っていると、バスの時間が頻繁に変わって予定が立てづらいう意見や、バスの時間変更により部活動が十分にできないという意見があった。土日祝日は飯田高校発の終バスが15時30分であり、午後の部活動に支障が出ている。そのため、家族送迎が必要な状況にあり、夕方の便を土日祝日にも運行してほしいと思っている。また、試験の日は午前中で終業するが、昼のバスは12時34分のみであり、バスに乗るために急がないといけないとの意見が子どもから出ていた。13時近くにダイヤ調整していただくか、増便いただきたい。これから朝晩が暗くなっていく中で、バス停に照明の設置が必要ということと、自転車でバス停まで通う子どものためにも、自転車置き場が必要である。

(石川県高等学校PTA連合会：西谷委員)

のと鉄道は、現在1時間に1本と運行本数が少ない路線となっているので、資料1の14ページにあったように、下校時間や登校時間に間に合う便の運行を増やしていただきたい。また、8月12日から25日まで、のと鉄道が一部運休し、臨時ダイヤで運行していたが、七尾発穴水行の最終便が19時と早く、お迎えに間に合わない親御さんもいたため、増便するなどの対応を今後していただきたい。

(輪島商工会議所女性会：澤田委員)

商工会議所の立場としての意見であるが、地震の影響は大きく、商売が成り立たずに金沢や小松に移って商売をしている方がいる。その方の足がなく、特急バスや自家用車で行き来している現状であり、道路状況が悪いと以前意見を申し上げた。現在復旧していただいていると思うが、いつ頃までに復旧できるのか心配している。また、珠洲市からの話にもあった通り、人口減少が進んでおり、これからを担う若い世代が離れている現状を見て、先が見えない、どうしたらよいか分からないと、高齢者が諦めている。現在はとにかくのと里山海道の早期復旧をお願いしたい。

(JR 西日本：塚本室次長)

珠洲市、羽咋市はしっかり課題認識のもと施策に取り組みされており素晴らしいと感じている。羽咋駅の周りは大変雰囲気良くなっていると感じている。交通結節点の魅力向上は重要であり、引き続き連携して取り組んでいきたい。また、議題3でのと鉄道の話がある。事業内容の中に、枕木の更新などもある。のと鉄道とも連携し、強靱な鉄道インフラの構築を行っていきたい。

(のと鉄道：中田社長)

大雨の影響で一部運休していたが、8月25日に運行を再開した。この間、地域の皆様にご不便をおかけして申し訳なく思う。先ほど、今回の大雨の影響による臨時ダイヤ時の運行本数の少なさと時間帯について意見があったが、詳細をお伝えしたい。代行バスは、穴水-能登中島間を1台でピストン輸送を実施した。能登中島-七尾間は、バスが8往復、列車は9往復という形で臨時ダイヤで運行していた。臨時ダイヤだったことや、中島で道路の陥没があり、バスの迂回が必要であったこと、バス運転手の連続勤務の問題があったこともあり、柔軟な時間設定が出来なかったということがある。本日の意見をしっかりと受け止め、臨時ダイヤの設定をしっかりとしていきたい。

駅という交通結節点でどのような役割を果たしていくかということについて、今は特急バスと路線バスが乗り入れており、今後新たにAIオンデマンド交通が入ってくると、将来穴水駅の建て替えと待合室の整備の構想を持っているが、その中で交通手段の情報を分かりやすく提供することも大事だと感じた。アプリでの乗り換え案内もあるが、使いこなせない方もいると思う。バスやAIオンデマンド交通が交通手段として使われるように、電車・バスの待合室で情報提供していくことで役割を果たしていきたいと考えている。

(北陸鉄道：高橋自動車部長)

今年の4月1日に能登エリアの2社を1社に統合した。人材不足の状況の中で少しでも効率的に運営し、既存の路線を少しでも長く維持することを目的に実施した。

第一次計画として、能登と金沢の結びつきを何としても維持し、なくしてはならないとの思いから、弊社の特急バスを金沢から能登まで走り続けられるように尽力した。ただ、資料1に記載があるように、団塊の世代の定年退職が迫り、採用活動も必死に行っているが、中々採用までには結びついていない。路線網のどこまでが大型路線バスで走らせなければいけないのか、AIオンデマンド交通や各市町のコミュニティバス等の二次交通とどのように結びつけるか、ということ色々な自治体と真剣に話をさせていただいている。能登地区においてもAIオンデマンド交通を皮切りに、公共交通網の再構築が必要な時が来たと感じている。ただ、広域で運営していくとなると、幹線の路線バスと結びつける乗り継ぎポイントが必要になってくる。その整備をしっかりとしていかないと、先ほど意見が挙がったバス停の照明や自転車置き場などの問題が出てくると思うので、自治体や関係各所との調整も踏まえて尽力していきたい。

(能登島交通：青山社長)

運転士の確保が他と同様に課題である。あともう一つは、昨年デマンド交通の実証事業を実施したが乗車が少なく、運行に見合わないといった課題が見えてきた。今年も祖母ヶ浦線で実証運行を実施するが、そこで出てきた課題等をまた報告させていただきたい。

(石川県タクシー協会：中村常務理事)

AI オンデマンド交通の導入の背景として、タクシー事業者の廃業などが挙がっていたが、廃業したくて廃業している訳ではないということをご理解いただきたい。また、各自治体での公共交通の議論の中への、タクシー事業者の参画にもご協力いただきたい。先般、中能登町で公共ライドシェアについて勉強会を実施した。導入にあたる前段階の勉強会であるが、今後域内交通を考えるにあたり、鉄道・バス・タクシーといった交通事業者の参画もよろしくお願ひしたい。

(石川県交通運輸産業労働組合協議会：大脇委員)

簡単ではあるが、協議会について説明させていただく。公共交通、運輸、タクシーなどの担い手によって形成されている。公共交通に関わる担い手は約 2,000 名いる。公共交通計画の策定にあたり、担い手が確保されないと課題解決には至らず、行政の力添えをいただきたい。担い手がない分、交通空白地域を生んでしまっていると思うので、担い手の確保に力添えをいただきたい。

(北陸信越運輸局：大村課長)

パイロット・プロジェクトと今後の国としての交通政策の方向性について話をしたい。パイロット・プロジェクトについて、採択の趣旨として、今後不足していく交通リソースと人材の効率化と集約化が今後のモデルになるため、採択されたと考えている。AI オンデマンド交通はツールでしかないので、必ずしもアプリ等を導入しなければいけないということではなく、電話での予約等も含めてより良い方法を検討していくということにご理解いただきたい。

2点目、令和8年度概算要求にかかる概要がHPでも公表されたが、引き続き交通空白解消に向けた予算は要求していくが、本省から聞くと、今後は協働化・協業化がキーワードになってくる。ここを重点的に支援していくということであり、今後2市2町に限らず、どの地域でも共通する課題の解決に向けて国も支援していく。

(高山会長)

能登地域といってもエリアによって事情が異なってくるため、分けて考える必要があると感じた。もう一つは今困っていることと、3年後、5年後の変化する需要への対応を念頭に計画をまとめていくことが必要だと感じた。

当面の問題として、学生の通学と帰宅時の交通、そして高齢者の通院の交通、観光客の移動支援が最低限必要と思う。もちろん、若い方でも公共交通の移動の視点も大切だが、優先的には前述の移動かと思う。

他に意見が無いようなので、以上をもって、本協議会を終了する。進行を事務局にお返りする。

5. 閉会

(三林交通総合対策監)

高山会長および委員の皆様においては、熱心に議論いただき感謝申し上げます。高山会長からも話があったが、エリアごとに時間軸で考えていく事と、地域作りと関連させながら移動需要を考えていく事だと思う。担い手の話についても沢山ご意見をいただいたので、それらを踏まえて、地域公共交通を引き続き策定を進め、次回の協議会で事務局案を提示できればと考えている。本日はお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。これにて本協議会を終了する。

以上

